



浦幌町と友好の町絆協定締結

(岩手県)
洋野町だより

今年の感謝祭での芸能発表



たねいち産直ふれあい広場

種市地域食文化伝承交流施設運営協議会が運営する「たねいち産直ふれあい広場」は、種市地区中心街より車で3分ほどの国道45号沿いにある産直施設です。

同施設の産直センターでは、農家が直接提供している新鮮な野菜や果物類、手作りの漬物や惣菜類、そしてとれたての旬の魚介類などを販売しているほか、地元食材を使った料理を提供する「食の館」などのお食事処があり、休日には近隣の市町村などからも洋野町の地物を求める多くの買

物客が訪れ、約50台分の駐車場が満車となるほどのにぎわいとなっています。

毎年9月には「感謝祭」を開催し、景品付き餅まきやつきだてのお餅の無料振る舞い、保育園児や芸達者な産直会員による芸能発表など多彩な催しで来場者を盛り上げます。

同施設は、年中無休で午前9時～午後6時に営業を行っており、洋野町にお越しの際はお立ち寄りください。

主事 関根義隆

(洋野町企画課広聴広報係)

「第2期十勝定住自立圏共生ビジョン(原案)」パブリックコメントを実施します

帯広市は、平成23年に十勝管内18町村と協定を締結し、「十勝定住自立圏」を形成しました。これは、管内19市町村が連携して様々な取り組みを進め、子供からお年寄りまで、誰もが住みたい、住み続けたいと思える地域をつくることを目指すものです。

「第2期十勝定住自立圏共生ビジョン」は、平成23年度から5年間の取り組みを踏まえ、圏域の将来像や今後の具体的な取り組みを定めるものです。

帯広市では、同共生ビジョンの策定に当たり、十勝にお住まいの皆様の意見を広く反映させるため、パブリックコメントを実施しますので、ご意見、ご提言をお寄せください。

1. 意見をいただく名称

第2期十勝定住自立圏共生ビジョン(原案)

2. 資料の入手方法等

帯広市のホームページ (<http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/>) から閲覧・入手できます。また、浦幌町役場まちづくり政策課又は上浦幌支所でも閲覧・配布しています。

3. 意見等の提出方法

- ①電子メール、ファクス、郵送、持参でお寄せください(電話による意見の提出はできません)。
- ②提出様式は任意ですが、案件名、住所、氏名(法人その他の団体の場合は、名称及び代表名)を記載してください。
- ③電子メールによる提出の場合は、添付ファイルの使用はご遠慮ください。

4. 意見等の提出先

帯広市政策推進部政策室(市庁舎5階)まで
〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地
FAX番号:0155-65-4104
メールアドレス:policy@city.obihiro.hokkaido.jp
※持参する場合は、浦幌町役場まちづくり政策課でも受付します。

5. 意見の募集期間

平成27年12月1日(火)～平成28年1月6日(水)
※電子メール及びファクスの場合は
平成28年1月6日(水)24時まで
※郵送の場合は平成28年1月6日(水)必着

コラムひとこと

葉牡丹

葉牡丹に出合った、美しい。「広辞苑」に正月の装飾として使うとあるが、寒冷の北海道で鑑賞に適しているのが十月下旬の小さな花壇。白と紫のふたつの葉牡丹には、胸つかれて立ち止まったりするのは、「雪虫を見た」と友人に告げられた数日後のこと。来る日も来る日の葉を巻きこんで、重々のかさなりを見せる美しい葉。葉先をちぢらせた葉の深層をのぞいて、子を抱きしめているような人の熱い情を見ていた。

ヨーロッパ原種、きゃべつの品種でちりめん状の葉縁が牡丹のよう美しい、が葉牡丹の由縁らしいが日本にいつ頃渡ってきたのかわからない。数歩はなれてふり返り、つつと胸を通過したのが影絵のような座像仏…。なぜそれが胸にちらつくのか、「老い」のせいなのだろうか。教育勅語の封建時代に生まれた私である。

部屋に射す日はすきとあり暖かいが、木々の葉の大方が落ちて冬。あのM家の葉牡丹はふんわりと咲いているだろうか。

(高橋悦子)